

～東北再生可能エネルギー利活用大賞受賞～

「秋田産電力」を支える人々 ④ 成田 誠 氏

●障害者就労支援施設●

社会福祉法人秋田福祉協会 障害者支援施設おまたの里 支援課長補佐



施設見学者配布用の木製ノベルティを手にする成田氏

環境と福祉の融合、そして地域の活性化。ユナイテッドリニューアブルエナジーのバイオマス発電、「秋田産電力」の事業はさまざまな波及効果を生んでいる。東北経済産業局の16年度「東北再生可能エネルギー利活用大賞」も、こうした面が評価されている。福祉との連携では、発電所の施設見学者に配布する記念品の製造を県内の障害者就労支援施設に委託している。先に紹介した「夢・究極明日葉」はお菓子づくりを担当しているが、社会福祉法人「秋田福祉協会」の障害者支援施設「おまたの里」では、木製のノベルティを製造し

今後の販路拡大につながることも期待



秋田杉の間伐材を活用した木工作業に取り組む

おまたの里は生活介護事業と就労継続支援B型事業を行う障害者支援施設。就労支援事業では、秋田杉の間伐材を利用した木工作業を行っている。支援課長補佐の成田誠氏は、「施設の利用者が楽しみながら、意欲を持って作業に取り組めるよう試行錯誤しながら進めている」と話す。コースターなどの定番商品を、道の駅「しょうわ」にある商業施設「ブルームッセあきた」に土日などに直接出向いて販売している。「非常に好評で

口コミが広がって、最近では特別注文品の比率が高くなっている」状況だという。既製品にはない寸法のテーブルやベンチ、棚などをオーダーを受けて製造している。

ユナイテッドリニューアブルエナジーとのコラボでは、杉をイメージした秋田県のキャラクター「スギッチ」と「秋田産電力」の文字を組み合わせたノベルティづくりに取り組んでいる。同社のバイオマス発電も秋田県内の杉の間伐材等を燃料に活用しており、県のキャラクターを使うことでまさに官民一体で地域活性化を目指す象徴的なノベルティとなっている。

今回の取り組みについて、「施設のPRにもなるし、冬場はあまり商品の動きがない時期なので大変ありがたい」と話す。今後については、「対面販売では売り上げの面で限界があるので、これからは販路を拡大していきたい。そのきっかけにもなれば」と、今回の事業の波及効果にも期待を寄せている。(終わり)